

2015年 春 号

笑顔と心をつなぐネットワーク 明社通信

HEARTFUL

はーとふる

新連載

『これからの明るい社会づくり運動・3つの方針』活動紹介

新潟県・阿賀野明社、
愛媛県・宇和島明社、
東京都・国立明社

新連載 未来を創造する子どもたち

第1回 知っていますか？ 日本の子どものいま

被災地レポート「わすれない、いつまでも」

第4回 2030年まで続ける支援

——“未来児”に「生きるちから」を伝える

全国清掃キャンペーン『明社人 みんなでゴミ拾い 2015』のご案内

特定非営利活動法人明るい社会づくり運動(全国明社、砂川敏文理事長)は、平成24年から都道府県・地区明社様に「100万人のGOMI拾い」(GOMIファンタジスタプロジェクト主催、毎年5月3日に実施)への参加協力を呼びかけ、事前登録の参加人数を本誌に掲載してまいりました。

この事前登録は、主催者側の要望によるものでしたが、全世界中の参加人数の把握が困難となったことから、主催者側は昨年から世界中で拾われたゴミの数を計測する方法=スマートフォン、パソコン等のインターネットに接続する端末で清掃活動の様子を表す写真と拾ったゴミの量(袋のサイズ×袋数)、参加人数、活動時間を入力=を導入。全国明社が「100万人のGOMI拾い」の参加者総数をまとめて主催者に送っても、その数は反映されなくなりました。

以上の経緯から、全国明社は万やむなく「100万人のGOMI拾い」の参加者総数のとりまとめを終了とさせていただきます。

一方、都道府県・地区明社は、1年を通じ、「100万人のGOMI拾い」以外のさまざまな清掃活動にも取り組んでおられます。そこで、全国明社としては全国各地の清掃活動を独自に集計させていただき、本誌に掲載させていただきます。

清掃活動を通して、明社運動の連帯と一体感を深めたいと思います。詳細は以下のとおりです。清掃活動のご報告をお寄せください。

● **名 称**
『明社人 みんなでゴミ拾い 2015』

● **対 象**
1年の間に1回以上実施した清掃活動で、①明社運動の団体が主催したもの、②明社会員個人が実施したもの、いずれも可。市町村や市民団体が主催実施する清掃への参加も可です。

● **事例** 「ゴミゼロ運動」「100万人のゴミ拾い」「明社神社の境内清掃」「国道13号線クリーンアップ大作戦」「祇園祭ゴミ分別回収ボランティア」「自宅周辺」など。



● **ご報告方法**
①本誌同封のチラシ裏面「報告書」に必要事項をご記入いただき、FAXでご報告いただきます。
②「報告書」のご提出は清掃後で、締切日は前期と後期に分かれます。(右表参照)

	実施期間	締切日
前期	平成27年 1月 1日 平成27年 6月30日	▶ 平成27年7月31日
後期	平成27年 7月 1日 平成27年12月31日	▶ 平成28年1月31日

● **全体集計の発表**
全体集計の発表は、機関誌『はーとふる』で年2回行います。
前期(実施日:1月～6月)は秋号(10月1日発行)に掲載します。
後期(実施日:7月～12月)は翌年春号(4月1日発行)に掲載します。

● **「100万人のGOMI拾い」への参加について**
GOMIファンタジスタプロジェクトが主催する「100万人のGOMI拾い」に、直接参加する団体・個人は、主催団体の以下のサイトをご覧ください。
<http://gomi-f.com>
ゴミ拾いアプリ「ピリカ」による参加方法等も案内されています。
<http://www.pirika.org>



全国明社 NEWS

沖縄に決定です!『全国集会 2016』開催地

来年度開催する『全国集会 2016』の日程とメイン会場が、決定しました。
【日 時】平成28年7月2日(土)～3日(日)
【会 場】パシフィックホテル沖縄(那覇市西3-6-1、那覇空港からタクシー約10分)
【募 集】本誌秋号(10月1日発行)とともに「募集要項・参加申込書」を送付します。
航空機並びに宿泊ホテルの予約の関係で、第1次締切日を本年10月31日とします
【定 員】200人。第1次締切日前でも、定員になり次第、締め切ります。
※プログラムの概要については、本誌次号に掲載します。



今年も開催します!『全国都道府県会議』

一昨年から開催の『全国都道府県会議』を、下記の日程で開催します。
【日 時】平成27年10月31日(土)13時～11月1日(日)12時
【会 場】全国町村会館(東京都千代田区永田町1-11-35)
【目 的】明社運動の方向性や事業のあり方を共有し、全国都道府県の皆様と意見・情報交換を行い、より一層の繋がりを図る。
【参加対象】都道府県組織から推薦された方で、本人が全国明社の運営会員、または賛助会員であること。
※県組織がない地域の地区明社の参加も可。
【参加人数】各都道府県1～3人(複数参加の場合は、初めての方のご参加もご考慮ください)
【参加費】1人5,000円
【交通費】遠方から参加される方には交通費の一部助成を行います。
※後日、都道府県明社様宛に案内状を送付します。



昨年実施した『全国都道府県会議』の様子

募集します!『明社志民カレッジ』

各地の先見的な活動を訪ね、実施者の熱い思いにふれるフィールドワークを行い、時代から求められる新しい地域づくり・市民活動の担い手としての時代リーダーを育成する『明社志民カレッジ』を、今年も募集します。
会員の皆様には、本誌とともに募集要項を同封しました。奮ってご応募ください。



昨年実施した『明社志民カレッジ』の様子

第15回 通常総会のご案内

運営会員が対象です。運営会員の方には、総会議案資料とともに後日開催案内を送付します。

【日 時】平成27年6月13日(土)13時30分～15時30分
【会 場】中野サンプラザ(東京都中野区中野4-1-1)



昨年の『通常総会』

新連載

『これからの明るい社会づくり運動・3つの方針』 活動紹介

昨年11月に開催した『全国都道府県会議』では、本運動がこれから目指していく具体的な「3つの方針」が発表されました。

- 1 地域のために活動している諸団体と連携し一緒に活動を行い、身近な問題に取り組む市民運動として展開していく。
- 2 行政等の実施する地域活動や催事に積極的に参加し、行政との信頼関係を築いていく。
- 3 地域に合ったさまざまな活動をきっかけに、地域社会に貢献したいという願いをもった個人・団体へ積極的に呼びかけ、善意の実践の場を提供していく。

今号から「3つの方針」に沿った明社活動を紹介していきます。
初回は『全国都道府県会議』で活動事例発表を行った3団体にご寄稿いただきました。



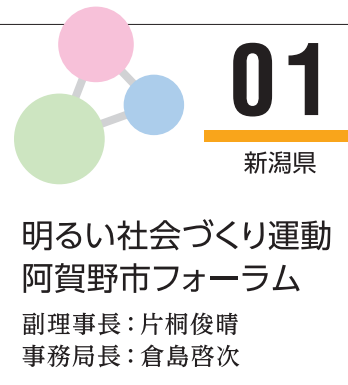
01 新潟県・阿賀野明社



02 愛媛県・宇和島明社



03 東京都・国立明社



志を同じくする仲間と協働すれば、
どんな事業も成し遂げられる

「交流人口の拡大」、これが私たち阿賀野明社の運動方針です。その目的は「出合いの中から、感動を共有し、信頼の関係を全市民に拡大していく」ことにあります。

平成15年には、「阿賀野市に住む善意ある人々と、思いやりあふれるまちづくりを目指して、活動を行っている人たちのネットワークを作る」ことを目的に、11団体で『思いやりネットワークあがの』を設立。これまで11回の絵画展（参加者平均1,800人）、7回の子供芸能発表会（参加者平均1,500人）、などを実施してきました。

また、市民団体や市民と協働して、中村文昭講演会（参加者平均350人）、アーケード清掃（参加者90人）、街づくりシンポジウム（参加者平均90人）、生涯学習シンポジウム（参加者平均120人）、国道清掃（参加者平均50人）、昭和の車イベント（参加者平均12,000人）などの事業に取り組んできました。こうした多様な事業を積み重ねたおかげで、「志を同じくする仲

間と一緒に、信頼の関係で協働し合えば、どんな事業でも成し遂げられる」ことを体験できました。

原動力はあらゆる組織に依存しないこと

いまでは、全国明社主催の『全国集会』や『全国都道府県会議』『明社志民カレッジ』等で、成功事例として紹介される阿賀野明社ですが、ここに至るまでには最大の転機がありました。それは協力団体をはじめとして、あらゆる組織からの自立です。

昭和46年の設立から約30年もの間は、協力団体のリーダーが企画し、明社役員が一生懸命に準備をして、当日、明社会員が招集されて、行事やイベントが開催されてきました。そこには、市民との関わりや市民と協働する姿はまったくなく、すべてが自己完結型のものでした。

その後、全国明社のNPO法人化を契機に、私たちにも自立の機会が訪れます。協力団体の長と何度も話し合いを行う中から、互いの考え方の相違が鮮明になり、協力団体に依存せず、

市民と協働する組織を目指すことになったのです。これが今日、私たちが行っているすべての活動の原動力となっています。

提唱の理念を振り返るならば、協力団体の組織上の役目として、明るい社会づくり運動を担うことはナンセンスです。人、物、金を特定の団体に依存している間は、自立した運動に発展することはありません。一人ひとりが「ライフワーク」として、どのように生きるべきか」を考えることが出発点だと思います。私たちは、「市民として、自分の住んでいる地域に対し、ネットワーク型の運動を起こし、人間関係を拡大していくこと」「交流人口の拡大」が最も重要な活動だと考えています。

市役所の職員も「市民として協働

協力団体から自立した私たちは、人、物、金のすべてに困窮しましたが、市役所からの依頼ごとには全力で協力し、市民団体や市民からの頼まれごとには全面的に取り組んできました。

本運動の提唱者は「黒子に徹すること」「素直に正直で真心でやること」の大切さを遺されましたが、本当にこの精神で実行すれば、信頼を勝ち取ることができます。一度、信頼の関係で協働事業が成功すれば、もう仲間です。友人です。この関係を阿賀野市民に広める運動を、阿賀野明社は「交流人口の拡大」として、運動の方針としているのです。

苦労や難儀なことも力を合わせて最後までやり遂げれば、達成感を一緒に味わうことができ